

北九州革新懇ニュース

平和・民主・革新の日本をめざす北九州の会
〒803-0817 北九州市小倉北区田町13-21 田町ビル3F
Tel.093-592-5000 Fax093-571-4346
E-mail k-kakushinkon@ace.ocn.ne.jp

全国革新懇「三つの共同目標」

1. 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
2. 日本国憲法を生かし、自由と人権・民主主義が発展する日本をめざします。
3. 日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

北九州革新懇

インタビュー



プロフィール 河嶋静代（かわしましずよ）教授
1952年生まれ 兵庫県小野市出身。1989年38歳で
佛教大学大学院修士課程入学。1995年佛教大学社会学
研究科博士課程社会福祉学専攻修了（社会学博士）。社会
福祉士、精神保健福祉士。1997年北九州市立大学文学部
人間関係学科助教授。2013年スウェーデン・カールスタ
ット大学客員研究員。2016年中国大連学国語大学交換教
員。共著「30年の歩み―夜間保育と子どもたち」（北大路
書房・2014年）、単著「闇に漂う子どもたち」（窓開社・

1984年）「ベビーホテルと児童家庭問題」（京都法政出版・2005年）年38歳で佛教大学大学院修士課程
入学。1995年佛教大学社会学研究科博士課程社会福祉学専攻修了（社会学博士）。社会福祉士、精神保健福
祉士。1997年北九州市立大学文学部人間関係学科助教授。2013年スウェーデン・カールスタット大学客
員研究員。2016年中国大連学国語大学交換教員。共著「30年の歩み―夜間保育と子どもたち」（北大路書
房・2014年）、単著「闇に漂う子どもたち」（窓開社・1984年）「ベビーホテルと児童家庭問題」（京都法
政出版・2005年）

子供の貧困と格差の拡大が社会問題となっており「NPO 法人チャイルドライン北九州」で理事長として活動されている、北九州市立大学の河嶋静代教授を黒坂、石橋が8月19日研究室を訪問し、お忙しい中1時間ばかりお話を伺いました。

・最初に「NPO 法人チャイルドライン北九州」の活動について

2003年に活動をはじめ「子どもの権利条約」を基本に活動をはじめ、北九州でも子どもの虐待や母子家庭の児童の問題などで、「子どもの経験交流会」を開いてきました。5年ごとに開かれる「国連子どもの権利委員会」に政府が実態を隠して報告するため、カウンターレポートを

NGO で取り組んだ人権レポート作成から始めました。これまで大人からのレポートは作られていましたが、子どもからの声が少ないので「子どもの意見表明権」（12条）を大切にしようと声をあげ、子どもが声を上げやすいツールとして「チャイルドライン北九州」の活動を始めました。

・現在どんな活動をされているのですか

今は、NPO 法人として北九州の「子ども専用電話」としてフリーダイヤルで、全国のチャイルドラインと連携しながら、子どもの声を聴くという活動をしています。宿題を教えることも含め「なんでも聞くとよ」とハードルを低くして、SOS の声を発信しやすくする。いたずら電話もあり、電話の受け手の身の安全を守るために、電話の設置場所は秘密です。なかには、ふだん接していない子どもたちからも電話がかかってくることもあります。児童養護施設や少年鑑別所に入っていた子、不登校・引きこもりの子、心を患っている子ども、障害のある子ども、再婚家庭の子どもたちなど、、、幅

・45歳で北九州市立大学の教授になった経歴について

短大で美術を学びデザイナーをめざしていましたが、水俣病の公害問題などに接し、粗悪な商品でも良く見せて売ろうとする「資本家の先兵としてのデザイナーの役割」に疑問を抱き、リアルに現実を掘り起こす報道写真家になろうと勉強、ベビーホテルの写真を1970年代末～1980年代前半にかけ撮り続ける中で、24時間・深夜保育の背景に母子家庭の貧困問題があること

・小倉駅前で「戦争法反対」のスタンディングを行ったとお聞きしましたが

ハンドマイクなど機械を買って最初は一人でやっていたのですが、その後チャイルドラインのメンバーなど3・4人に広がりました。学生時代に「ベトナム反戦」の活動で岩国基地周辺に滞在していたこともあり、昨年の政府の動向にとっても危機感

・今の北九州市立大学の学生に何を期待しますか

社会福祉を学ぶ学生の中には、「自分の家に介護する人がいる」とか「兄弟に障がい者がいる」など身近に気になる問題がある学生はそれらを福祉につなげて深く掘り下げていたりしますが、そういう問題を抱えていない学生は福祉への関心が薄いように思いました。私が世話人をしている性的マイノリティの学生サークル「北九大LGBTの会」の学生たちは、自分のセクシュアリティについての悩みや生きづらさ抱えています。私は、地方自治体や小学校などの人権学習の講師依頼で、当事者の学生を伴い出かけることがよくあります。そうしたとき、学生たちは、みんなの前で自分のことや、自分の考えをきちんと述

・最後に参議院選挙から18歳選挙権が実現しましたが政治的関心度はどうですか

たとえば学生たちは、アルバイトと学業の両立の問題を抱えています。これらの問題は私的

広い子どもの声を聴いています。

設立から13年以上たち、現在では、行政や学校、地域の人々など、子ども支援の活動として社会的にも認知されてきています。

10月から始まる、チャイルドライン北九州のボランティア養成研修では、子どもの現状を学習するため、11月5日には定時制高校「生徒の貧困の問題」など、学習する計画を立てています。貧困の問題ではアルバイトをしながら学んでいる子どもたちの「ナマの声」を研修会で取り上げる予定です。

がわかりました。ベビーホテルでの取材を、フォト・ルポルタージュ「闇に漂う子どもたち」として上梓しましたが、カメラマンでは生活できないことと、写真を撮る中で見えてきた社会問題を解決する視点を身につけようと、38歳で大学院に入学、ベビーホテル問題を研究論文のテーマとして43歳で博士号を修得、公募していた北九州市立大学に応募し採用されました。

を感じ、学生が戦争によって被害にあわないように、一人でも何か出来ることをしたいと思い、週末小倉駅前ですることにしたのです。その後、北九州市立大学でも署名などネットでやっていたので署名名簿に登録しました。

べることができ、「若いのに自分をもっているな」、「すごいなあ」と目を見張られる場面が何度もありました。また、私の教え子の中には、自分で学費や生活費を稼ぎながら学業を続けている日本人学生や留学生がいます。彼らはすごい力をもっているなど感じます。私の20代を振り返ると、自分が何者になるかわからず、人生で一番苦しい時期でした。将来が見えず目標も揺れ動きフラフラして、今から思うと崖っぷちを歩いていました。学生たちには、厳しい生活に疲れきって潰れてしまわないようにと願うとともに、希望を失わないで自分らしい道を見つけて歩いてほしいです。

な問題として捉えられがちですが、それらは極めて社会的・政治的な問題です。個人が抱えてい

る生活上の問題が私的なこと、自己責任で解決することとみなされ、政治的な課題と結びつけて考えられていないことが問題なのです。私は長年ボランティア活動をしてきましたが、社会的方策の不備を補うだけ活動では社会は変わって

かないと思うようになりました。母子家庭の問題、教育費のこと、貧困問題など、社会を変えるのは、学生も、自分たちは国民であり、有権者だという自覚を持つことが大切だと思います。

感想：大分ー北九州を通勤圏に、大学の授業をしながら「NPO 法人チャイルドライン北九州」の理事長として活動。また、中国、韓国を訪問、母子家庭の自助グループ「しんぐるまざーず・ふぉーらむ」などで活躍していることに感心しました。特に関心を持ったのは「子どもの貧困」に携わり、母子家庭の子どもたちに対する取り組みです。私が定時制高校の学生時代に接した子どもたちが母子家庭で授業料が払えず、悩みながら働き、通学していた子どもたちを思い出したことです。スウェーデンでは離婚が多いそうですが社会福祉が充実しており、離婚しても生活や教育には影響がありません。日本の社会福祉の在り方について考えさせられました。この間の選挙でも、学生、労働者、ママの会など各地で新しい流れが広がり、声をあげる姿がありました。若者に期待しております。

先生お忙しい中、本当にありがとうございました。

※現在、チャイルドライン北九州ボランティア養成研修参加者募集中！

希望者は、FAX 093-964-4152 メール kawashima@kitakyu-u.ac.jp まで。

第6回朗読と音楽の平和コンサート

「平和」に共感、広がる出演者

■早いもので6回目

「長崎に落ちた原爆は、本当は小倉に落ちるはずだった。そんな町に住んでいて、平和に無関心でいいのか」と、読み聞かせボランティア・おとぎぞうしが、他の朗読団体や歌声

■出演依頼に、みなさん快諾

手探りで始めた第1回目のプログラムは60分。しかも実際は40分で終わってしまいました。「あんなに苦勞したのに、あっという間に終わってしまった…」と思いながらも、よし来年も頑張ろうという気になりました。そして6回目になる今年は、必死で2時間30分に収めなければならないくらい、プログラムがいっぱいでした。

■お神楽から高校生バンドまで

今年は「書と太鼓のパフォーマンス」から始まり、学生さんを中心にした「新しい憲法の話」の朗読や、コカリナ・60年代の懐かしいバンド演奏などもありました。これまで、

朗読と楽の平和コンサート 八記久美子

の合唱団と一緒に始めた「朗読と音楽の平和コンサート」。早いもので、この夏6回目のコンサートを開催することができました。

一度出てくださった団体から「いい取り組みをしていますね。また声をかけて下さい」と言われます。また、一緒に取り組みをしているメンバーから「あんな団体がある」「こんな団体がある」と、どんどん情報が入ってきます。そして出演のお願いに行くと、みなさん参加を快諾してくれます。

手話ダンス・よさこい・子どもたちの太鼓・地域のお神楽・人形ボードヴィル・紙芝居・幼稚園児と先生の合唱など、いろんな方たちに出演していただきました。高校生バンドの演奏

が始まったとたん、キヤーキヤー言いながら、座席で飛び跳ねてリズムをとる沢山の幼稚園

■区次長さんに期待

コンサートのコンセプトは『北九州市非核平和都市宣言』を、自分たちの好きな朗読や音楽で実践する」です。今年は、南区の区次

■宮城県仙台市からも電話が

また、新聞に小さく紹介された、私たちのコンサートの記事を読んだ仙台の方から、「自分たちも同じコンサートをしたい」と、電話がかかってきました。聞くと、まず小倉南区役

■余談ですが、連合会館で学習会

余談ですが、私は今、辺野古埋め立て土砂搬出反対の運動をしています。不安を感じながら始めた一点共闘のこの運動も、今ではいろんな立場の皆さんに、尊敬の念と仲間意識を感じながら、取り組みを進めています。

■平和コンサートも一点共闘!?

形は全然違いますが、平和コンサートも辺野古土砂も、突き詰めていけば、「二度と戦争はしない」という一点の取り組みではないでしょうか。

すでに来年のコンサートの準備は始まっています。平和コンサートに参加されたことのないみなさん、是非一度お越しください。楽しいプログラムでお待ちしていますよ。

児に、驚いた事もありました。

長さんが参加してくださいました。市民がこんな取り組みをしている事を、区長や市長に届けていただけたのではないかと思います。

所に電話をし、区役所から紹介された「北九州市民の会」に電話、そこで紹介された私の携帯に電話をしたとのことでした。

7月には東京の「連合」の会館であった学習会にも参加しました。「全労連傘下の組合で働いていた私が、連合会館で行われる学習会に参加する日が来るなんて」と、世の中の変化を嬉しく思いました。



会場全体で「非核平和都市宣言」の群読をする「コマ

「新基地・沖縄問題と連帯を考える」学習会を開催 戸畑革新懇



9月8日午後6時から、戸畑けんわ病院「会議室」で戸畑革新懇学習会「新基地・沖縄問題と連帯を考える」を開催、15人が参加しました。講師の「辺野古埋め立て土砂搬出反対北九州連絡協議会」事務局長の八記久美子さんがパワーポイントによるスライド写真や資料を使い、高江のヘリパッド建設と「やんばるの森」の自然、辺野古新基地建設の現場とガラパゴスよりはるかに多い5300種以上の海洋生物の“宝庫”大浦湾と辺野古の海、沖縄の歴史と「日米合同委員会」、「宝の海を門司の土砂で殺すな」と搬出に反対する活動などについて40分間講演。参加者は熱心に話に聞き入りました。「もっと多くの人に聞いてもらいたかった」と大変好評でした。